

「新大学基本構想」の変更案について

＜新大学のキャンパス整備について＞

令和2年7月
府民文化部

基本構想変更の背景

令和2年1月、府戦略本部会議を経て、新大学の方向性や教育研究組織、キャンパス整備の方針等を示した「新大学基本構想」を府・市・法人で取りまとめた。

その後、3月の府議会教育常任委員会において、「森之宮新キャンパスについては、新大学が都市シンクタンク機能や技術インキュベーション機能を掲げていることから、今後、大阪城東部地区のポテンシャルを高度に活用して、先端的研究の推進につなげることができる研究分野や産学官連携の拠点に重点を置いた配置について、再検討すること。」との附帯決議が付された。

また、5月にとりまとめられた「大阪城東部地区のまちづくりの方向性（案）」では、大阪城東部地区を「次世代型キャンパスシティ」と位置づけ、新大学を先導役にまちづくりを進めていくとしており、スマートシティや都市シンクタンク機能、技術インキュベーション機能など、今後、大学が先導役となって展開していくこととしている。

これらの状況を踏まえ、より森之宮キャンパスに相応しい教育研究組織や機能など、新大学の配置学部等について改めて検討を行った。



変更の考え方

- 先端的研究の推進につなげ、スマートシティの推進や都市シンクタンク・技術インキュベーション機能として産学官連携に寄与することができる研究分野として、当初、中百舌鳥キャンパスに配置するとしていた「情報学研究科」(大学院)を森之宮キャンパスに配置変更。

・ 情報学研究科は、新大学として新たに設置する大学院研究科。人工知能やデータ分析を軸として、様々な学問領域との融合を図るとともに、情報を自在に操る情報学に関する専門家の育成をめざしている。同研究科は、今後、大阪城東部地区のまちづくりを進めていく上においても、重要な機能の1つであるスマートシティの推進や、都市シンクタンク機能・技術インキュベーション機能として産学官連携にも寄与していく。

- これに伴い、森之宮キャンパスの配置学部等について再検討を行った結果、生活科学部の居住及び福祉学科については、引き続き杉本キャンパスに配置する。(森之宮には栄養学科のみ配置)

キャンパス	基本構想における教育研究組織	変更案
森之宮	基幹教育 文学 リハビリ学 生活科学(栄養、居住、福祉) 都市シンクタンク機能・技術インキュベーション機能	基幹教育 文学 リハビリ学 生活科学(栄養) 情報学 都市シンクタンク機能・技術インキュベーション機能
中百舌鳥	現代システム 情報学 工学 農学	現代システム 工学 農学
杉本	社会科学 理学	社会科学 理学 生活科学(居住、福祉)

※その他のキャンパス(阿倍野、りんくう、梅田サテライト)については変更なし

〔新大学のキャンパス整備事業の精査の状況〕

新大学のキャンパス整備については、「新大学基本構想」において、「キャンパス整備に伴う投資については、合理的な範囲で可能な限り圧縮する努力をする。」と記載している。

また、令和2年3月の府議会教育常任委員会において「全体のキャンパス整備にあたっては、過大な公費負担を伴うことがないよう、事業費全体の徹底的な精査を行うとともに、民間資金の積極的な活用を図り、可能な限り事業費の縮減に努めること。」との附帯決議が付された。

これを受けて、森之宮キャンパスにおける面積の精査や、既存学舎（杉本・中百舌鳥）における新築面積の縮減等の精査を行った結果、**現時点では、全体事業費として、約918億円（見込み）。**

※なお、事業費については、現時点の市場動向を踏まえた額となっており、今後の建設コストの状況等により、変動する。

<参考：面積精査等の状況について>

① 森之宮キャンパスについて

- ・ 森之宮キャンパスについては、研究室の面積抑制や、ライブラリー、部室、食堂の面積を縮減するなど面積精査等を行い、**約1万㎡を縮減。（当初 95,800㎡ ⇒ 精査後 85,200㎡）**
- ・ **民間資金の積極的な活用については、森之宮キャンパスに配置を予定している情報学研究科及び都市シンクタンク機能の拡充（8,000㎡）にあたり、民間活用による整備の検討（民間が施設を建設し、大学が入居するなどの整備手法について検討）を行う。（2025年度以降の早期の整備をめざす）**

② その他のキャンパス（阿倍野、中百舌鳥、杉本）について

- ・ 中百舌鳥及び杉本キャンパスについては、既存学舎の改修により対応することで、新築面積を縮減。

（中百舌鳥）新築	25,600㎡	（当初 35,300㎡から▲9,700㎡）	改修	12,900㎡
（杉本）新築	8,500㎡	（当初 10,000㎡から▲1,500㎡）	改修	9,100㎡

- ・ 阿倍野キャンパスに集約する看護学部については、羽曳野キャンパスからの移転にあたり、実習室等の複数科目での兼用や、講義室の構造の工夫など、阿倍野学舎の規模に合わせ面積を縮減。**（精査後の面積 17,600㎡）**

「新大学基本構想」(令和2年1月 府・市・法人策定)の変更案

キャンパス配置の変更案 (「新大学基本構想」P.33)

【変更前】



【変更後】



(※1、2) 工学の一部については、2027年度に中百舌鳥へ、理学の一部については、2026年度に杉本への移転を予定
 (※3) 情報学の一部は、中百舌鳥に存置。
 (※4) 理学の一部は、中百舌鳥に存置。

「新大学基本構想」(P.34)【変更前】

都心キャンパスの機能とねらい

- 約7千人の学生や多くの教職員が活動することにより、地域住民や観光客との交流が生まれ、また、大学施設の開放、生涯学習・リカレント教育の実施などにより、学生が他者や社会に関わる力を身に付けるとともに、大阪城東部のまちの活性化につなげる
- 2025年大阪・関西万博のレガシーとしてキャンパスを未来社会の実験場として整備し、キャンパスでの実践・実証を行う。さらに、周辺地域にも拡大するなど、社会実装に結びつけ、課題解決方策と新しいまちづくりのインキュベーションをめざす

【森之宮キャンパスに配置する学部等の配置意義】

○基幹教育

- 全学の共通教育改革を行い、社会人として必要な基礎力を身に付けさせ、専門教育への確実な連結を深める基幹教育を新キャンパスにおいて行う。全学の学生が一堂に会して行う基幹教育は、府大・市大の統合により設置した新大学にとって象徴的な存在となる。

○文学部・研究科

- 語学教育やリベラルアーツなど基幹教育の多くを担っていることから、基幹教育と同じ新キャンパスに配置する。また、都心キャンパスの立地をいかし、大阪の知と文化の発信にも寄与することができる。

○医学部リハビリテーション学科・研究科

- 森之宮周辺にはリハビリテーションの専門病院等があり、リハビリテーション学の実践・実証の場として、適した環境となっており、教育研究の向上や都市課題の解決に貢献することができる。

○生活科学部・研究科

- 地域に居住する高齢者等を対象とした食の提案や高齢者に優しい住宅改善の取組など、生活科学部における栄養・福祉・居住環境分野における地域での実践・実証により、地域課題さらに世界の都市課題の解決につなげることができる。

○都市シンクタンク機能及び技術インキュベーション機能

- 森之宮周辺には、公設試験研究機関や民間企業、府市をはじめとする行政が存在しており、こうした関係機関との密接な連携が可能となることから、大阪の都市課題の解決や産業競争力の強化を図っていくことができる。

「新大学基本構想」(P.34)【変更後】

都心キャンパスの機能とねらい

- ・ 約7千人の学生や多くの教職員が活動することにより、地域住民や観光客との交流が生まれ、また、大学施設の開放、生涯学習・リカレント教育の実施などにより、学生が他者や社会に関わる力を身に付けるとともに、大阪城東部のまちの活性化につなげる
- ・ 2025年大阪・関西万博のレガシーとしてキャンパスを未来社会の実験場として整備し、キャンパスでの実践・実証を行う。さらに、周辺地域にも拡大するなど、社会実装に結びつけ、課題解決方策と新しいまちづくりのインキュベーションをめざす

【森之宮キャンパスに配置する学部等の配置意義】

○基幹教育

- ・ 全学の共通教育改革を行い、社会人として必要な基礎力を身に付けさせ、専門教育への確実な連結を深める基幹教育を新キャンパスにおいて行う。全学の学生が一堂に会して行う基幹教育は、府大・市大の統合により設置した新大学にとって象徴的な存在となる。

○文学部・研究科

- ・ 語学教育やリベラルアーツなど基幹教育の多くを担っていることから、基幹教育と同じ新キャンパスに配置する。また、都心キャンパスの立地をいかし、大阪の知と文化の発信にも寄与することができる。

○医学部リハビリテーション学科・研究科

- ・ 森之宮周辺にはリハビリテーションの専門病院等があり、リハビリテーション学の実践・実証の場として、適した環境となっており、教育研究の向上や都市課題の解決に貢献することができる。

○生活科学部・研究科（栄養）

- ・ 食・栄養を介した健康課題の解決に向けた実践・実証に取り組むとともに、キャンパスの利便性を活かして、食品・栄養・健康関連企業との共同研究・開発から人材やイノベーションを生み出すことで、食の都・大阪から国内外の食・栄養の課題解決につなげることができる。

○情報学研究科

- ・ 先端的研究の推進につなげることができる研究分野であり、大阪城東部地区のまちづくりを進めていく上においても重要な機能の1つであるスマートシティの推進や、都市シンクタンク機能・技術インキュベーション機能として産学官連携に寄与することができる。

○都市シンクタンク機能及び技術インキュベーション機能

- ・ 森之宮周辺には、公設試験研究機関や民間企業、府市をはじめとする行政が存在しており、こうした関係機関との密接な連携が可能となることから、大阪の都市課題の解決や産業競争力の強化を図っていくことができる。